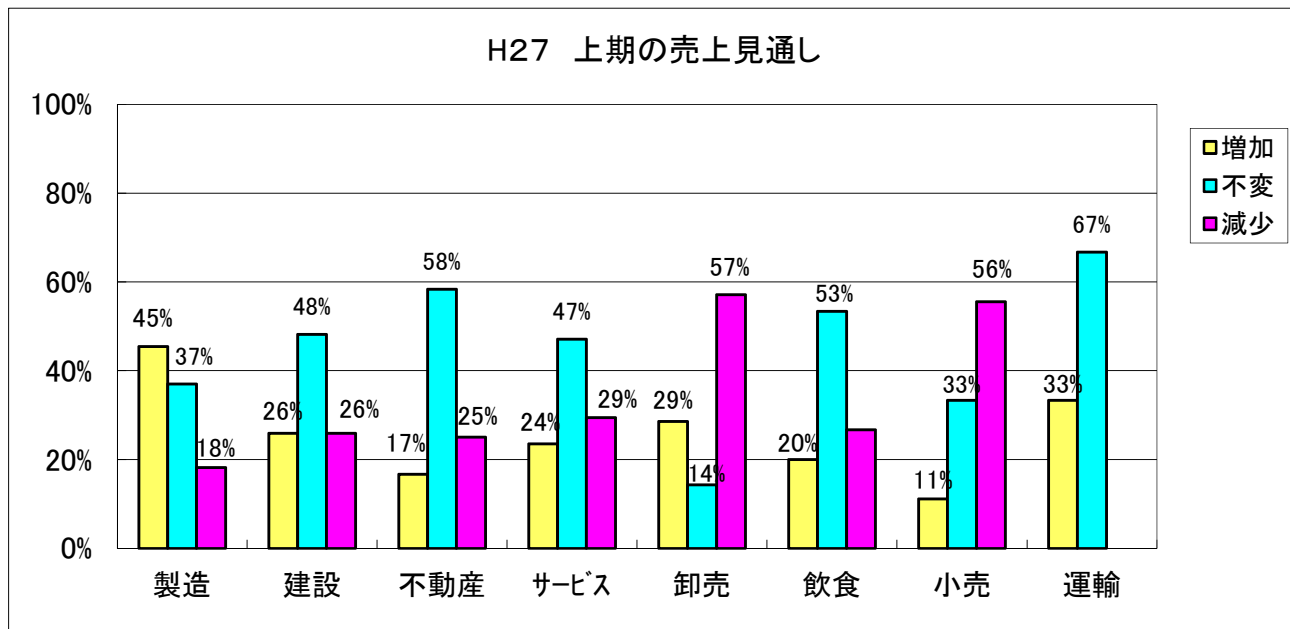


調査2 平成26年7月～12月を水準とした平成27年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

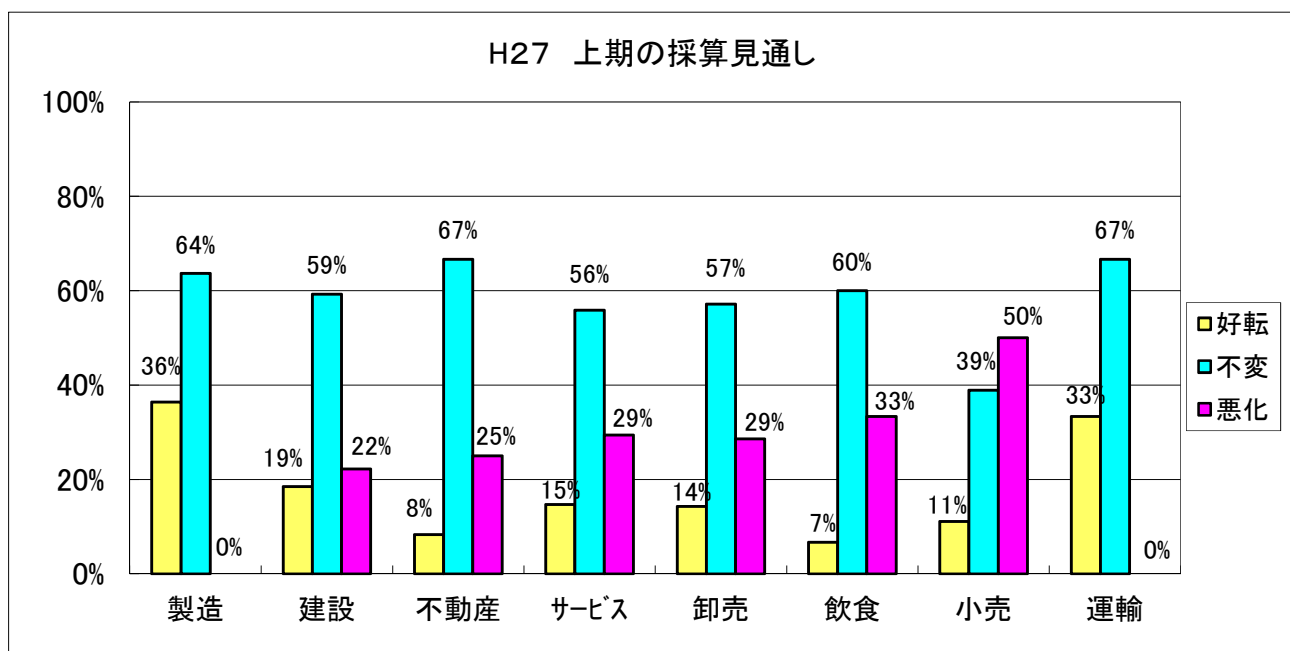
①売上見通し

全体で見ると「増加」26%（前回31%）と厳しい見通しとなっている。「不変」45%（前回36%）、「減少」29%（前回33%）となった。業種別で見ると「増加」する見通しが多かった業種は、製造業（45%）、運輸業（33%）で、その他の業種は、厳しい見通しであった。



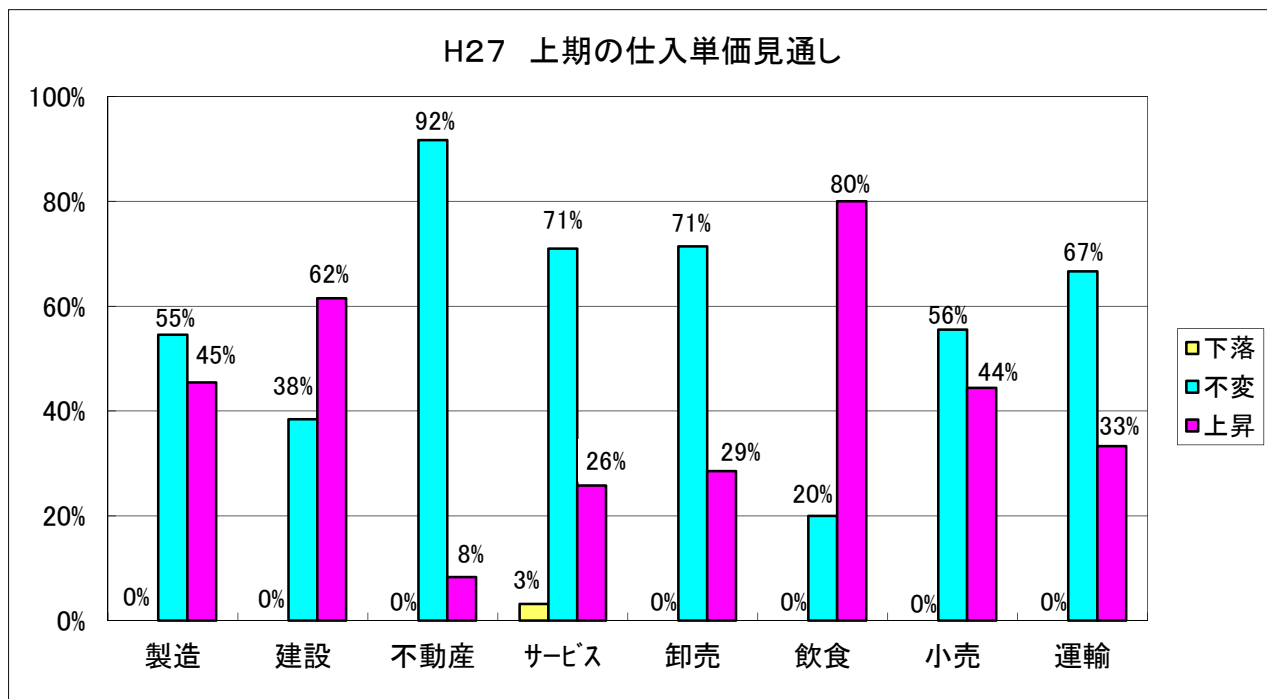
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が18%（前回24%）、「不変」が59%（前回41%）、「悪化」が23%（前回35%）となった。業種では、製造業、運輸業が「好転」の回答が30%以上の回答があった。「悪化」の見通しが高いのが小売業（50%）であった。



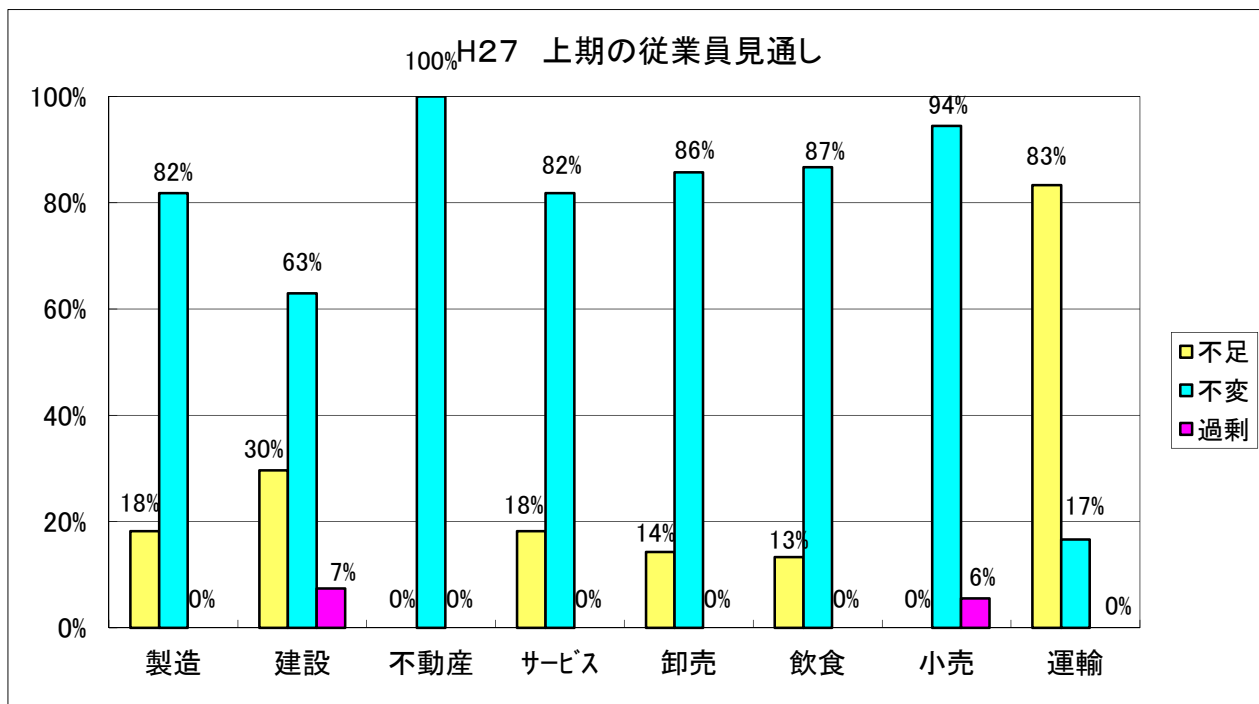
③仕入単価の見通し

仕入単価については、飲食業(80%)、建設業(62%)が「上昇」の回答が多かった。前回、「上昇」の回答が多かった運輸業は、原油価格の下落もあり33%と前回より50%もダウンした。



④従業員の見通し

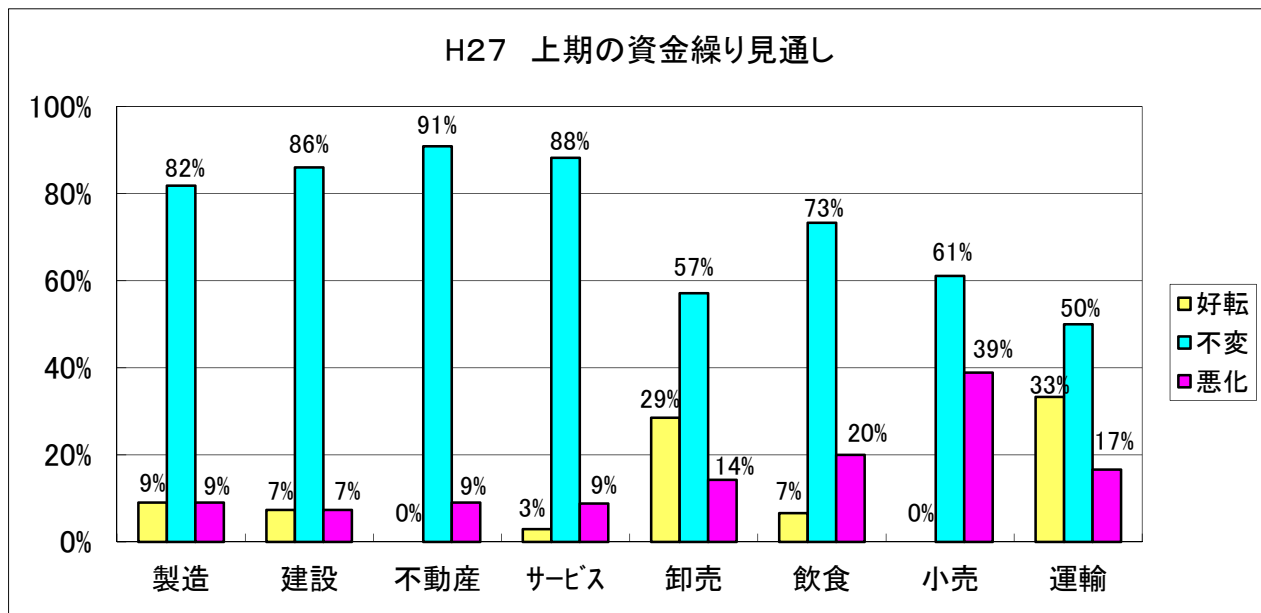
「不足」との回答が多かったのは、前回調査と同じで運輸業83%(前回67%)がもっとも深刻な人手不足の状態が続いている



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りの見通しで「悪化」が多かったのが小売業で39%であった。その他の業種では全体的にあまり変わらない見通しである。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(56%)が多く、続いて「融資無し」(27%)、「緩やか」(11%)、「厳しい」(6%)となっている。

